

令和 8 年度 堺市 英語教育改善プラン

自分の考えや気持ちを伝え合うことができる基礎的な資質・能力の育成

○「英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思う」の児童の割合向上（R7：74%⇒R8：80%）

目標

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①外国語の勉強は好きだと思う児童の割合【堺市教育委員会調べ】
R6.6年：59.3%
 →**R7.6年：67.9%**

②外国語の授業で自分の考えや気持ちを英語で話している児童の割合【堺市教育委員会調べ】
R6.4年：69.4%
 →**R7.5年：76.9%**
R6.5年：79.6%
 →**R7.6年：76.5%**

未だ改善が必要な点

①英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思う児童の割合【堺市教育委員会調べ】
R6.6年：79.4%
 →**R7.6年：73.9%**

②外国語の授業で、先生や友だちと外国語で話すとき、話の内容を理解しようとしている児童の割合【堺市教育委員会調べ】
R6.6年：89.4%
 →**R7.6年：87.8%**

③R8新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合
R6：9.8%→R7：8.4%

2. 要因分析

①年間を通した授業改善に関する研修の実施や、授業訪問時に指導助言を行ってきたことで、各校において教員の授業改善が着実に進み、児童の言語への興味関心を高めることにつながり、外国語の勉強が好きな児童の割合が増加したと考えられる。

②また、外国語の授業において、4年から5年にかけては、言語活動の充実や表現の習得により、英語で話そうとする児童が増加したと考えられる。一方、5年から6年では内容の難化や正確さへの意識の高まりにより、発話へのハードルが上がり、やや減少が見られた。「正しく話すこと」だけでなく「伝えようとする姿勢」を重視した指導が重要であると考えられる。

①②英語でコミュニケーションを図ろうとする児童は7～8割にとどまっている。その要因として、課題の提示や活動の目的や場面、状況が児童にとって必然性のあるものとなっていないことや、主体的に思いや考えを表現する機会が十分に確保されていない実態がみられた。その結果、「伝えたい」「伝わった」という実感に伴う経験の不足につながっていると考えられる。

③小学校教員として求められる資質・能力の多様化により、人材確保が相対的に難しくなり、昨年度よりも低下した。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②小学校外国語研修の実施

各小学校の英語教育を担当する教員を対象とした研修を年間3回程度開催し、言語活動を通した指導の在り方についての理解を深める。また、小中接続の円滑化を図る観点から、中学校英語科教員との連携の在り方について実践的に学ぶ機会を設ける。講義及びワークショップを通して、言語活動を通した指導計画の立案、改善、授業改善の視点を共有し、児童が主体的に学習に取り組む授業の実現を図る。

①②①②小中連携の推進

中学校英語科教員との小中合同研修を実施することで、小・中学校双方の視点から授業改善に関する具体的な方策について協議を行う機会を設ける。また、中学校の授業を参観する機会を設け、中学校段階における言語活動を通した指導について知見を広げ、小学校の授業実践に反映させる。これらの取組により、小・中学校間の円滑な接続を図る。あわせて、系統的・継続的な英語教育の充実を推進する。

①②①②専科教員による公開授業の実施

専科教員が、授業改善に主体的に取り組むことを目的として、「指導と評価の一体化」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学習者用デジタル教科書の活用」の3つのテーマに基づくグループ別研究を推進する。各グループにおいては、単元構想から授業実践、評価の在り方までを一体的に検討し、実践的な授業力の向上を図る。また、研究の成果を広く共有するため、小・中学校教員を対象に公開授業を実施する。これにより、専科教員のみならず、校種を越えた教員が具体的な授業実践から学ぶ機会を創出し、共通の課題意識のもとで授業改善を推進する。

③一定の英語力を有する者の採用に向けた計画

採用試験において、小学校の免許に加えて、中学校英語免許を有していることを資格要件とした「小学校外国語推進」枠の設置、小学校での英語検定等有資格者に対する加点の対象拡大等により、一定の英語力を有する者の確保を図る。

令和 8 年度 堺市 英語教育改善プラン

実際のコミュニケーションにおいて活用できる実践的な資質・能力の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：60.7%⇒R8：62%）

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる中3生徒の割合
【英語教育実施状況調査】
R6:59.8%⇒R7:60.7%

②CEFR B2レベル相当以上を取得している英語担当教員の割合
【英語教育実施状況調査】
R6:36.8%⇒R7:56.0%

③生徒質問調査「即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」
【R6全国学力・学習状況調査】
R5:62.5%⇒R6:79.1%

未だ改善が必要な点

①ICT機器の活用について、「発話や発音などの録音・録画」を実施した学校の割合
【英語教育実施状況調査】
本市R6:67.4%⇒R7:79.1%
全国R7:86.3%

②言語活動に対する生徒の認識
【R6全国学力・学習状況調査】
「まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたか」
本市:80.7% 全国:82.4%
「自分の考えや気持ちを書く活動が行われていたか」
本市:84.9% 全国:85.7%

2. 要因分析

①③授業における即興的なやり取りを重視した言語活動の充実やペア・グループ活動の増加により、実際に英語で考えや気持ちを伝え合う経験が増えたことで、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合や肯定的回答の割合が向上したと考える。

②英語担当教員に対する研修や授業改善の取組の推進により、教員の英語力及び指導力が改善し、資格取得に対する意欲が高まり、CEFR B2レベル相当以上を取得している教員の割合が大幅に向上したと考える。

①授業におけるICT機器の活用が進み、発話や発音などの録音・録画等のアウトプットの実施割合は向上しているものの、全国平均と比較すると依然として低い状況にあり、ICT活用の推進が課題であると考えらる。

②まとまった内容を発表する活動や、自分の考えや気持ちを書く活動の計画的な実施により、一定程度、活動の機会が確保されているものの、活動の質や目的の共有の面で十分とは言えず、生徒の認識が全国平均をわずかに下回る結果となっていると考える。

3. 目標を達成するための施策・事業

①③①②「英語指導力向上研修」の実施と「研究校による公開授業」の実施
学習指導要領が求める学びの実現に向け、「言語活動を通した指導」を視点とした授業改善、パフォーマンステストの質の向上、ALTの効果的な活用、指導と評価の一体化の充実をねらいとした、英語科教員を対象とした研修を実施する。また、研究校2校による公開授業及び研究発表を通して取組内容や成果を周知し、各校の授業改善につなげる。加えて、研修内容を授業で実践し、継続的な改善につなげる。

①②③①②英語教育を推進する教員が取組共有する場の充実と小中連携の推進
研究指定校の担当教員を対象とした協議会を学期に1回開催し、各校の取組内容や成果、課題について共有する。あわせて、具体的な改善方策について協議を行うことで、各校英語科における組織的な授業改善を推進する。また、小中合同での外国語指導者研修を実施し、指導観や目標、評価規準の共有を図る。また、学校群内の小学校授業の参観機会を設けることで、児童の学びの実態や指導方法について理解を深める。これにより、段階的かつ系統的な言語活動の設定を意識した指導へと接続し、「言語活動を通した指導」の小中学校で連続性のある指導体制の構築を図る。

①②授業改善につなげる資料「結果及び分析」の作成

各種調査結果をもとに教育センターが「結果及び分析」を作成し、学習のポイントや課題を明確化することで、各校における指導の充実と授業改善を図る。

①②「AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業」実証研究

令和7年度の実証研究の成果と課題を踏まえて、モデル校において、生成AIを活用した「書くこと」を中心とする言語活動の充実に向けた実証研究に取り組む。生徒の思考の整理や表現の修正、推敲を支援し、個に応じたフィードバックによる言語活動の充実を図る。あわせて、取組内容や成果を周知し、ICTを活用した授業改善の普及と実践の充実につなげる。

令和 8 年度 堺市 英語教育改善プラン

的確な理解や適切な表現による実践的なコミュニケーションを図るための資質・能力の育成

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 11%、B1以上 3% ⇒ R8 : A2以上 22%、B1以上 5%)

目標

- ☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFR A2レベル相当以上を取得している、あるいはA2相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合【英語教育実施状況調査】

R6:8%⇒R7:11%

②英語の授業におけるICT機器の活用状況について、「発話や発音などの録画、録音」「オンライン会話（遠隔地の生徒や教師、ALT等と英語で話す交流等）」の2項目でR7**100%**【英語教育実施状況調査（R7）】

③ALT等の授業への参画の具体的な状況が全項目で**75%以上**【英語教育実施状況調査(R7)】

①授業における、英語担当教師の英語使用状況「発話の50%以上を英語で実施している学校の割合」が低下【英語教育実施状況調査】
R6:100%⇒R7:80%

②英語の家庭学習の課題におけるICTの使用状況の低下【英語教育実施状況調査(R6)】

2. 要因分析

①これまでの取組の継続により、言語活動を重視した授業が定着してきたことが背景にあると考えられる。

②③ICT機器の活用が進んだことで、録音・録画による振り返りや、オンライン交流等、生徒の英語使用機会と量の拡充につながったことが一因と考えられる。教員とのチーム・ティーチングを通して、生徒が英語を実際に使う場面を取り入れた授業にALTが継続的に参画したことが活用の充実につながったと考えられる。

①英語使用状況については、ICTの活用場面が広がる中で、授業内の言語使用の在り方について課題が見られた。教師と生徒、生徒同士での英語でのやり取りの場面について、指導の工夫が求められる。

②学校でのICT活用は進んでいる一方で、家庭学習において英語学習にICTを活用する習慣化までには至っていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②② ALTとICTの効果的な活用を含めた即興性を重視したやり取りの活動の実施

授業において、生徒のコミュニケーション能力の育成を目的に、ALT、ICTを効果的に活用しながらグループでのやり取りや即興性を重視した活動を行う。

①②① 「英語指導力向上研修」の実施、「英語資格・検定試験の特別受験制度」の積極的な活用の推進

学習指導要領が求める学びの実現に向けた授業改善やパフォーマンステストの質の向上を目的に、英語科教員を対象とした研修を中学校と合同で実施し、情報交換も行う。また、教員自身が英語力向上を図ることができるよう特別受験制度等も活用を推進する。

②②ICT、生成AIを活用した英語授業の推進

生徒が自ら学ぶ場面でのICT、生成AIの効果的な活用について、校内で実践事例の共有を行い、各授業での推進を図る。

目標達成状況一覧表

令和8年度様式（様式2）

堺市教育委員会

堺市教育委員会管轄の高等学校は1校のみのため、一部非公表としています。

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）										
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）										
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	100	100	100	100	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）	100	100	100	100	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	0	100		100		100		
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	70	67	70	29	70	43	70		70	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）	100	100	100	100	100	80	100		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	65	58	60	60	62	61	62		65	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	70	52	60		65		70		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）	85	64	70		72		75		77	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100		100		100		100	
		公表（％）	40	42	50		55	60		65	
		達成状況の把握（％）	65	63	65		70	75		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	40	38	40	37	42	56	45		47	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）	65	34	55		60		65		70	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	75	76	90		100	100		100	
		公表（％）	20	25	50		60	70		80	
		達成状況の把握（％）	50	51	70		80	90		100	